

## 課題対応取組報告書

名称	城陽地域包括支援センター						
提出日	令和	7	年	6	月	13	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等			
活動テーマ	地域包括ケアのネットワークの強化				
地域ケア会議から 見えてきた課題	①独居高齢者で身寄りがいないため支援者がいない、又は、同居する家族はいても、介護者自身も高齢で理解力低下、障がい等もあり十分に支援者として機能出来ていない。 ②同居する家族が精神疾患や障がいなどがある場合、共依存などになり早期介入も難しく、世帯全体が立ち行かなくなり支援範囲も広げ世帯ごと支援が必要となっている。 ③認知症や精神疾患を背景とした金銭管理や生活困窮にまつわる課題が多い。				
対象	地域住民、民生委員、各関係機関(行政、医療機関、介護サービス事業者等)				
地域特性	【鳴野地域】城陽圏域内の人口の約45%を占め、駅、スーパー、集合住宅や病院なども多く利便性が高い。高齢化率が22%程度の所もあれば、市営住宅等がある地域は38%と高い。地域活動が活発で、地域独自で見守りや生活上の支援を行う取り組みがある。 【城東地域】駅周辺は利便性が高い半面、駅から離れると買い物や通院に不便で移動スーパーとくし丸が運行している。集いの場として個人のボランティア活動によるサロンがある。 【中浜地域】狭い道が多く、昔からの家屋が並び、集合住宅も少ないため地域防災に注力している地域。国道沿いに資源が集中し、福祉事業所乏は乏しいが、東成区と隣接している利点もあり。 中浜地域はどの地点も高齢化率が27%であり地域内の差がない。 【森之宮地域】地域の高齢化率は34%と高く、相談数も多い。買い物や移動などの利便性が低い。地域とのつながりが無い高齢者も多く、孤立しやすい環境であるが、UR公団、行政、介護、医療などの関係者からなる協議体の様々な取り組みや、サロンや寺子屋など孤立防止の地域活動もある。				
活動目標	①認知症高齢者への理解の促進のため、地域住民に対する勉強会や講演会(認知症フェスタ)などを行い、安心して過ごせる地域づくりを進める。 ②世帯ごとや支援困難な事例に各専門職等の特性を活かしてチーム支援が行えるよう、地域・障がい・医療・介護・行政等との支援体制を整備する。 ③金銭管理問題が多かったことから、早期に生活自立支援相談窓口等との協働に努める。				
活動内容 (具体的取組)	<b>課題に対する活動</b> ・障がいフォーラムの開催:地域、行政、事業者や支援の専門職の関係強化のための取り組みとして継続開催して8年目。参加者51名。 ・「人生会議」セミナーの実施:孤立の課題も多いUR住宅にて実施。参加者22名。 ・出張相談会を駅前の医療ビル内にて毎月1回開催。 ・地域学習会の実施:地域住民を対象に年8回開催。 ・認知症フェスタの開催:講演「身近な生活から始める認知症予防について」、体験ブース等で展開。 ・資質向上研修の実施:「精神障がいへの基礎的な理解と支援方法」参加者44名。 ・健康麻雀の立ち上げ:中浜アクションプランに参画し、男性高齢者の集いの場の創設。				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	「支援未介入の引きこもりへの支援」をテーマに、障がいフォーラムで多職種多機関へ参加を募り、事例検討やグループワークを通じてネットワーク力の強化ができた。ネットワークの拡張と強化を進める事で、どこからでも介入でき、金銭管理問題を含む課題に対し、各専門職がそれぞれの領域の力を発揮し、チームアプローチが行える体制構築に繋がっている。地域学習会では、地域包括支援センターの機能、認知症、権利擁護、成年後見制度などの制度の活用について理解を深め、地域の理解や支援力の向上が図れた。区全体でも取り組む人生会議のセミナーを行ったことで、地域住民における人生会議の認知度の向上や取り組む必要性の理解を進めることができた。地域の諸会議当に参加し、課題の共有を図ることで新たな集いの場を創設できた。				
今後の課題	・令和6年度は金銭管理における課題も多く、制度の活用をもってしても制度利用に至るまではサービス事業所や地域包括支援センターが管理せざるを得ない状況があった。今後さらに増加が予測される独居高齢者への支援の拡充が課題となる。また、ケアマネジャー自身で必要な制度(成年後見制度など)に繋げるようスキルアップも必要。 ・地域の行事や集いの場に男性の参加者が少ない傾向は続いており、男性が参加しやすい受け皿を増やしていく必要がある。				